

「病院機能評価」は日本医療機能評価機構による評価です

患者さんの命と向き合う病院には、その医療の質を担保するために備えているべき機能があります。

国民の健康と福祉の向上に貢献することを目的とする公益財団法人として1995年に設立された日本医療機能評価機構は、病院が備えているべき機能について、中立・公平な専門調査者チームによる「病院機能評価」審査を行い、一定の水準を満たした病院を「認定病院」としています。

約90項目の病院機能を
専門調査者が審査し評価しています

評価を行う項目は「患者さんの視点に立って良質な医療を提供するために必要な組織体制」や、「実際に医療を提供するプロセス」、「病院全体の管理・運営体制」など、約90項目があります。

信頼できる医療を確保することを目的に、専門調査者が病院の機能を評価することで、その病院の課題を明らかにして医療の質改善を支援するものです。



公益財団法人 日本医療機能評価機構
Japan Council for Quality Health Care



（公財）日本医療機能評価機構とは

日本医療機能評価機構は、国民の健康と福祉の向上に寄与することを目的に設立された公益財団法人です。

質の高い医療を実現するために、病院機能評価をはじめ、医療安全に関する教育研修、医療事故情報のデータベース、診療ガイドライン等の提供など、幅広い事業を実施しています。

もう一度自宅での生活を取り戻す ～家族と一緒に～



リハビリ技術科では退院後の在宅生活を見据えたりハビリテーションを実施しており、これまで多くの患者様の在宅復帰のお手伝いをさせて頂いてきました。

しかし、自宅では無く施設へ入所されるケースも少なくない現状があり、住み慣れたご自宅へ退院して頂けるよう、幾つかの取り組みを始めました。

その一つがご自宅での訓練です。病院内の限られた環境では出来ない実践的な訓練を、ご自宅に伺い患者様・ご家族と一緒に退院後の生活を見据えた訓練を行います。その中で出来る事や出来ない事を確認し、出来ないことに対してはご家族も一緒に解決していき、退院後の生活に対する不安の軽減に繋げていきます。

安心できる住み慣れた場所でもう一度生活が送れるよう、多職種との連携を図り、「自宅への退院」の実現に向けたリハビリテーションを行ってまいります。

誠和会だより特別版
2019年10月発行

発行者：医療法人誠和会 和田病院 院長 和田徹也
〒883-0051 宮崎県日向市向江町1丁目196-1
問い合わせ先 ☎0982-52-0011

和田病院は
日向・入郷地区の皆さんを支える
日本医療機能評価機構の
認定病院です



- ✓ 患者様の個別性を尊重し、患者様中心の医療を提供します
- ✓ 働きやすくやりがいの持てる職場環境作りに努めます



地域の皆さんの要望に育てていただいた 民間医療法人です

理事長
和田徹也
Wada Tetuya



幼少期に地域の皆さんに育てていただきました。不十分なから恩返しのため37年目です。

和田病院が開設した1952(昭和27)年当時は医療保険制度もない時代でした。今からは考えられない医療事情で、診療内容や結果が不良でも医師から診てもらえるだけでも幸せとされてたようです。初代院長は赤ひげ先生的気風があり、24時間対応の地域医療を提供していました。その後、昭和62年に増床して現在地に移転しています。救急医療や脳神経外科を宮崎医科大学からの支援をいただき、一時は外科・内科・放射線科も充実していましたが、新臨床研修医制度の変革で満足な対応ができないこともあります。当医療圏唯一の脳外科手術や脳血管内治療を支援すべく、内科・外科(一部は大学からの支援が継続されています)も頑張っている現状です。内科の内視鏡は消化管出血の救急対応も可能です。そのほか、疾病構造の変化とともに、回復期リハビリテーション病棟、在宅医療支援をすべく療養病棟(一部緩和治療)、地域包括ケア病棟、訪問リハ、介護老人保健施設、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所も併せて運営中です。

救急・急性医療から繋がる回復期・療養、在宅医療の患者さんに尽くす気持で個別に合った生活維持できる医療を展開していく努力をしています。災害拠点病院としても一層の機能充実も重要なことと肝に銘じています。

今後も力を入れているリハビリテーションでも 地域への恩返しを

地域はリハビリテーションのさらなる充実を待っていると感じています。



いまの生活をすこやかに継続できるように大切な支援と思っています。

そのこともあり、入院中は集中的なりハビリはもちろん、退院前の自宅での動作確認や住宅改修の指導をご家族やケアマネジャー、改修業者など同席のもとで実施しています。退院直前には自主訓練、屋外路上歩行訓練などの指導もし、退院後の在宅生活により円滑に移行できるよう配慮しています。

回復期リハビリテーション病棟では専任医師の管理下で、退院前カンファレンスとして、ご家族やケアマネジャーだけでなく、退院後に利用予定のサービス事業所の職員にも同席してもらい、必要に応じて介助法の指導などもしています。

地域と連携へ自らも育てていきたい

また2003年10月から12年半、宮崎県より地域リハビリテーション広域支援センターの指定を受け、日向入郷圏域でのリハビリテーションに関する支援をしてきました。その関係でケアマネジャーや施設からの相談を受ける機会も多く、現在でも当院が関わるケースを中心に対応しています。そのほか日向市の地域ケア会議への専門職派遣や地域包括支援センター運営協議会、地域密着型サービス運営委員会、日向保健所の難病対策地域協議会などにも出席し、関係機関との連携もさらに図ってまいります。

患者さんから頂いた大切な「声」を看護実践に活かしていきたい

病院機能評価の「業務の質改善に積極的に取り組んでいる」「患者家族の意見を聞き、質改善に活用している」という審査項目のいずれも当院は「A:適切に行われている」評価を得ています。

入院中に受けたケアや職員の接遇、療養環境について、患者さんからの評価(退院患者満足度調査)を真摯に受け止め、改善活動に取り組んでいます。「看護の質向上委員会」は、主任クラスが中心となり、実践レベルでの具体的な問題解決を検討し、質の向上に寄与するものです。又、評価指標として「DiNQL事業」

への参加を検討段階であり、4つの病棟と外来で、一覧表より項目を決め、調査を始めました。データ化することで、現在の「質」の可視化、更に強化を図ることを期待しています。患者さん、ご家族から頂いたご意見、ご要望は、出来るだけ聞き漏らすことなく、タイムリーに「回答」するよう心がけています。この積み重ねが、信頼関係に繋がることだと信じています。看護部の基本理念である「守り支える看護・介護を実践します」の為に、「質の向上」は私たち職員に課せられている「使命」であると考えます。



看護部長
黒木雅代

病気にかかっても、出来るだけ健康な状態の時に近い生活に戻っていただきたい。看護は「支える力」の見せ場だと考えます。

切れ目ない関わりを意識した円滑な支援を目指したい



診療技術部長
荒瀬浩之

「病気だけでなく“人”をみる」を念頭に置き、患者さんやご家族の目線に対応できるように心掛けていきたいと考えます。

病院機能評価の「リハビリテーション機能を適切に発揮している」という審査項目で当院は「A:適切に行われている」評価を得ています。

当院は急性期～療養まで病期に応じた病棟に分かれているため、リハビリも病棟担当制として各病棟に配置し、朝の申送りから各種会議への参加などを通して病棟との連携強化を図ってきました。それは患者さんの機能回復を図るだけでなく、生活の視点を重視し、患者さんのニーズや病棟での状況などを情報共有しながら退院後の生活も視野に入れた対

応が必要と考えるからです。

また一方で、リハビリ部門全体での月1回の症例検討会を開催しています。各病棟の症例に対するグループワークを通して目標設定や課題を見直し、各スタッフのスキルアップを図ると共に病棟間の情報交換の場として活用する事で部門内での共通認識の強化にも取り組んでいます。

転棟や退院などによる環境変化に伴う状態悪化や混乱を最小限に抑えつつ、患者さんがより円滑に社会復帰して頂けるように切れ目ない支援を目指していきたいと考えます。

他職種のスタッフで連携して安全な環境を作ります

病院機能評価の「安全確保に向けた体制が確立している」との審査項目で、当院はA(適切に行なわれている)評価を得ています。

病院の中には様々な職種があり、それぞれの専門的な知識や技術、そして思いやりで患者さんの医療や看護を提供しています。職種は違えど、ゴール(目的)は患者さんの健康回復です。そのために安全確保体制を整備し、チーム力を高めています。

部署ごとに安全を守るために遵守する項目を決め、お互いに確認し合う「部署相互ラウンド」を導入しました。月に1回他の部署から、

確認がなされ、結果を公表する取り組みです。職員同士で声を掛け合い、改善してほしいことを伝える場となり、効果的なチームワークが図れています。

この取り組みは院内にとどまらず、地域の医療施設との連携にも導入しました。各医療施設の安全担当者とネットワークを築き、相互に医療安全体制を確認する活動を実践しています。

地域で暮らす方々が安心して医療や看護、介護を受けていただけるよう、これからも活動していきたいと思えます。



医療安全管理室室長
医療安全管理者
富山由美

患者さんを含める「チームの力」を発揮し、患者さんやご家族、地域のみなさんから信頼される医療機関であり続けたいと思えます。